

城下町・港町・宿場町の情趣を追って

津市 津市中心部

三重県津市は、その名の通り、昔は港町として知られたまちです。戦国時代に城が築かれ、江戸時代には藤堂藩の城下町として、また、伊勢街道の宿場町として栄えました。長い歴史の中で多彩な物語が紡がれ、今もまちのあちこちにその面影が宿ります。

今回は、津市役所をスタート地点とし、「お城公園」から津観音寺、「フェニックス通り」「津なぎさまち」「津港」と回って市役所に戻る、津の中心部を歩くコースです。帰り道も含めると比較的長距離ですが、広い歩道のある道が多く、歩きやすい道のり。進むに連れて、官庁街から商店街、門前町、港町へと趣が変わります。津のまちが持ついろいろな顔を楽しみながら歩きましょう。

取材・文：堀口裕世



ご案内いただいたのは「安濃津ガイド会」の高森 孝一さん。港町・城下町・宿場町などさまざまな側面から、津の歴史の面白さやまちの魅力を語っていただきました。

■ 行程図		所要時間／約3時間		※所要時間は、おおよその目安です。	
START	津市役所	約50m	「お城公園」	約200m	三重会館前交差点
				約180m	大門西交差点
				約370m	津港
				約400m	「津なぎさまち旅客ターミナル」
				約980m	浄明院
				約800m	観音寺

「お城公園」の高虎像に

津市役所の正門前に立つと、道を隔ててすぐ前に、「お城公園」が豊かな緑を茂らせています。立派な石垣の「玉櫓跡」の脇から城内の日本庭園へ。「津城は堀が大変大きく、今は内堀の一部しか残っていませんが、昔は内堀と外堀が『回』の字の形になっていました。この日本庭園は西の丸と呼ばれた場所で、今は本丸と続いています。本来は内堀の中にあ

り、細い通路で結ばれていたのです」と高森さん。

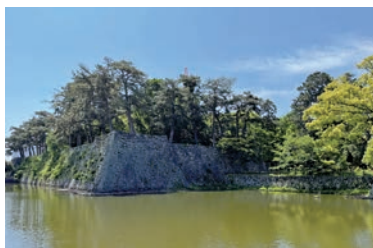
整備され、藤堂高虎の騎馬像があり、その後方に大小の天守台がそびえています。「戦国時代に織田信長の弟・信包がこの地に城を築きました。その後、富田知信・信高父子を経て、慶長13(1608)年に高虎公が城主となって城を改修し、まちづくりをしました。高虎公は身長が190センチメートルほどもあったといわれます。津に入府したとき53歳でしたから、当時としては壮年を過ぎていたと思いますが、その後、大きな働きをされたのですから、大した人物だったのでしょう」と、思い入れのあるお話に、想像がふくらんでいきます。

東多門櫓台の「模擬三重櫓」は、昭和33(1958)年に造られ、内部は展示スペースとして活用されています。津城にも御城印があり、津駅観光案内所で販売されているとのこと。ここから「お城公園」を出て左に進みます。

観音様と門前町・大門

大きな通りに出たら右へ。この角には、発掘された内堀の石垣が保存されており、内堀の広さを実感させます。

国道23号を左に行くと、三重会館前を過ぎた辺りの歩道の左脇に、小さな地図があります。「江戸時代と現在の地図が



「お城公園」の内堀



藤堂 高虎像



津城 模擬三重櫓



保存されている内堀の石垣



江戸川乱歩の墓



浄明院

えます。「昔の寺町です。高虎公は、岩田川から堀川をのぼして、その外側にお寺を並べて、城下の護りとなりました。寺町は、川に近い藤堂家代々の墓所である寒松院まで続きます。そこから少し上流方向には、堀川の名残があります。」
伽藍の屋根が連なって見えるのに心を惹かれつつも、今回はそのまま直進。また少し進むと、左手に浄明院があります。「ここには、藤堂家の殿様の母たちのお墓や、江戸川乱歩一家のお墓があります」。

そのまま進んで近鉄道路との交差点を過ぎると、フェニックスの葉を海風が揺らし、リゾート感が増してきます。ゆるやかな坂を登った突き当たりの堤防の向こうは海。贅崎浦です。白い砂浜と青い水平線を左に見ながら堤防沿いに歩き、「津なぎさまち旅客ターミナル」に出ます。海に面したデッキは爽快。中部国際空港に向かう白い船と、岬の先の四角い小さな灯台が旅情を誘う風景です。



「津なぎさまち旅客ターミナル」に続くデッキ



津港

し、地震と津波で荒廃したということで、詳しいことはわかっていません。今の港は幕末の安政6(1859)年に藤堂藩によって造られました。

港を回り、奥の辺りから、「フェニックス通り」に戻り、スタート地点の市役所に向かいます。余裕があれば、寺町や宿屋町などをじっくり見たり、三重会館前交差点の手前にある「まんなか広場」で一休みするのもいいでしょう。

問 津観光ガイドネット(津市観光協会内)
TEL 059-246-9020



「立町」の石標



観音寺



観音寺境内にある地藏像

どの宿屋があったと聞いています。往時の賑わいを思いながら右にまがり、「フェニックス通り」を歩きます。大きな街路樹がエキゾチックな景観です。「昭和42(1967)年に近鉄道路との交差点より西側が造られ、平成17(2005)年に海に続く東側も整備されました」。



「フェニックス通り」



「宿屋町」の石標

大門西交差点で23号を渡り、直進。「この道は江戸時代には『立町』と呼ばれました。観音寺の参道である伊勢街道と直角に交わる縦の道という意味です」。

「右さんぐうみち 左こうのあみだ」と彫られた石標のある四つ角を左に曲がると観音寺(恵日山観音寺大宝院)です。赤い仁王門をくぐり、観音様にお参り。「ここは日本三観音の一つで、ご本尊は聖観音立像です。国府阿弥陀三尊も有名で、天照大神の本地仏とされ、昔は伊勢神宮

観音寺の前の道標

寺町は城下町の護り

伊勢街道でもあった門前町・大門の商店街を通り「フェニックス通り」へ。「この向かい側には旧町名の『宿屋町』の石標などがあります。街道近くに80軒ほど併せてお参りする人が多かったのです。境内にあるお地藏さんは、高虎公由来と言われますが、この像の右肩にある傷は、第二次世界大戦のときに焼夷弾を受けたものです。空襲で津のまちは大破し、一面焼け野原で、津新町の駅からこの像が見えたといえます」と、思いをこめて語られます。

しばらく歩いて交差点に出ると、交差する県道114号に沿って、左手には西来寺、上宮寺など、右手には天然寺、宝樹院など、大小の寺院が続いているのが見